

・まちづくり計画ができるまで

西山台小学校区では、これからも暮らしやすいまちであり続けるために、令和3年6月から西山台小学校区コミュニティ連絡協議会設立準備委員会を立ち上げ、西山台小学校区コミュニティ連絡協議会の設立を目指し、自治会の皆さんを中心に、今後の地域コミュニティの進め方について話し合いを進めてきました。

準備委員会の様子



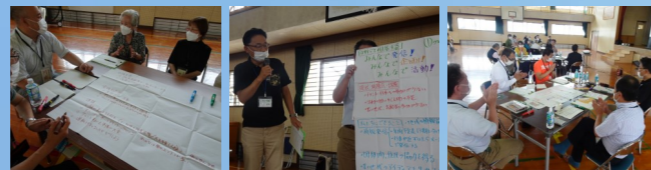
地区の「まちづくり計画」の策定に向けて、令和3年12月から令和4年12月にかけて、「西山台小学校区のみらいば話してみゅ〜で!」という名称の話し合いの場を重ねて、「西山台小学校区まちづくり計画」が完成しました。

西山台小学校区のみらいば話してみゅ〜で!の様子

第1回
R3.12.5
まちの現状について話しました!



第2回
R4.6.12
分野ごとに分かれて、深く考えました!



第3回
R4.12.4
まちづくり計画の案を確認しました!



これまでご参加いただいた団体の皆様

西山台自治会、西山台団地自治会、三川町自治会、三原町自治会、三川団地自治会、西山台小学校区青少年育成協議会、西山台小学校育友会、西山台小学校区子どもを守るネットワーク、西山台小学校、三原小学校区民生委員児童委員協議会、西山台保育園、西浦上・三川地域包括支援センター、主任児童委員、西山台ふれあいサロン、済生会長崎福祉センター、デイサービス二丁目の太陽が丘、ケアプランセンターあき長崎

※本計画は、必要に応じて西山台小学校区コミュニティ連絡協議会で見直しを行います

西山台小学校区 まちづくり計画

西山台小学校区のめざす将来像

愛があふれる街

～ 知りあい ふれあい 助けあい

代々つながる西山台～

分野	分野の将来像	現状・課題・問題点	将来像実現のために必要な取り組み	
			既存の取組	みらいば話してみゅ〜で！で出された意見
つながり 地域活性	みんなで発信！ みんなで企画！ みんなで活動！ 全世代つながり・助け合いのまち	<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代、高齢者のイベント・行事への参加が少ない。 ・活動の担い手(人材)の不足。 ・自治会・子ども会への加入が少なくなり、つながりが希薄になっている。 ・若い世代の地域活動への参加が少ない。 ・商店がなくなっている。 →他地区からの配達来ない。 →インターネット普及するとますます外出しなくなる。 ・地域と学校・世代間のつながりが強い 	防災無線を使って 行事案内をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の情報誌の作成。 ・年間予定表を学校の学期に合わせて3期に分けて作成して発信する ・行事が近づいたらメールなどで発信する ・疲弊しないために、年に2度程度の頻度の行事を行う。 ・子どもを取っかかりとした行事と発信→インターネット・自治会加入・未加入を問わず身近な近隣からの声かけ ・団体間、住民の協力を得る。 ・共同売店(買い物とコミュニケーションの場) ・3世代にこだわらず、感染症対策を講じながら、屋外で効果的な活動・行事を行う。 ・防災無線を子どもの登下校見守りの案内にも活用する。(自治会回覧板には今後掲載予定)
高齢者 福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなが集まり、つながる場所やイベントができる！！(公民館、集会所、行事(まつり、掃除、習い事)) ・いきいき元気で笑顔あふれるまち ・独居高齢者が孤立しないまち ・活発なサロンの活動→高齢者が元気なまち ・コミュニティバスの運営できる制度・体制を！ →移動に困らない暮らしやすいまち 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で、約2年行事できなかった。 ・自治会未加入の人の生活状況を知らない(本当は見守りたい何かしてあげたい) ・買い物する場所がない(足腰が弱った人が増えている) ・運転免許証を返納する人が多い ・運転できなくなったらどうしよう(買い物・病院etc)・週に一回開催しているサロンが活発で元気になるが、担い手や男性の参加が少なく、準備も大変 ・来たいけど歩いて行けない(サロン)・・・西山台は上り下りが多い ・西山台校区の3名の民生委員で、1人あたり、20～30件の独居世帯を対応している。 ・高齢化、子どもの声が聞こえない ・班長できない人が増えた ・各世帯の状況を把握したいが、個人情報の取り扱いが難しい。 ・ささえあいマップを作成しているが、年齢だけでは分からない情報があるので、実際に顔を合わせて落とし込む必要がある。 ・卓球する場所が話し合いや交流の場になっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・公園の清掃をしている ・ささえあいマップの作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会に入ってもらえるよう、声かけなどの活動をする ・三川町公民館、三川地区ふれあいセンターでピンポンしているところに茶話会でもできたらいいなあ(3時間借りているので) ・コロナ禍で今までできなかった、夏まつりや敬老会など、できることをする(定例会や月1回の掃除も続けてお互い顔を合わせよう) ・西山台を一巡したあとにスーパー、病院に連れて行くコミュニティバスを呼んでもらえるように、企業や行政などに働きかける。 ・サロンで男性が好む内容を検討(前半体操、後半趣味で分ける) 映画はどうか(石原裕次郎、君の名は、寅さん、などなど) ・サロンに参加するための交通手段の確保 ・サロンが終わった時間に、とくし丸が来てくれるようお願いする ・サロンを維持できるよう自治会からも応援しPRする！ ・電話だけではなく顔が見える訪問をする
子ども 子育て	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの名前が大人が分かること ・となりの方が分かること ・保育所や学童が子どもにとって安心できる拠点になること ・小学生がイベントに参加できるような姿 ・小学生の親御さんが参加できるような(時間・曜日を考えるなど) 	<ul style="list-style-type: none"> ・腹痛などを伝える子がいる(コロナの影響があつてか?) ・公園のトイレが1か所しかない(南公園のみ)子どもたちが使える公衆トイレがほしい ・マスクをつける→保育園児は難しい時もある ・マスクにより、大人の表情が見えないことでコミュニケーションがうまく取れないことが心配 ・マスクは外して歩けるようになってきている ・学校のトイレ(体育館横)を使えるようにしてもらいたい ・道で車のスピードが速い時がある ・道がデコボコになっているところがある ・子どものことを思っの言葉が不審者に間違えられることがある ・桜の木の枝が出てきていて少し危ない ・街灯はあるが、暗いところもあり、子供たちが心配 ・サルやイノシシは出ることがある(年に1,2回?) ・平成30年にこども110番の家の地図ができた以降、更新ができていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・3世代交流会(小学校) ・門松作り(育成協) ・通学路の点検(地域で実施) 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちが安心できるような声かけをする→「大丈夫?」「大丈夫だよ」 ・子供たちが安心できるような大人の雰囲気づくり ・朝や夕方歩いている方に腕に「見守り」の印を巻いてもらう ・青パトの活用 ・緊急のときは、メールや放送ができる ・保育所や学童があり、そこでも見守る ・子ども110番の家の地図を新たに作る 
生活環境	<ul style="list-style-type: none"> ・安全で住みやすい地域 ・住みたいと思う地域 	<ul style="list-style-type: none"> ・小回りのきく公共交通機関がない。(公的機関だけでは難しいのでは) ・時間帯により、バスがガラガラの状態の時がある →通勤・通院時間帯外で買物支援の時間に当てられないか ・公営住宅に入居者が減っている。 ・買い物ができるお店がない。 ・空き家が増えてきている。 ・空き家情報や苦情の申立て先が分からない ・防災無線が聞こえない地区がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・木育教育「フォレストマスター」による学びに取り組んでいる ・地域清掃(公園を限定しない) 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティバスの運行を要望する ・情報の発信・共有(自治会を中心として) ・空いてる壁にツタ等をはわせみどりの壁をつくり観察する ・空いている壁に発電パネル(リサイクルパネルもあり)を設置し、→発電、蓄電し、災害時等に利用する。地形的にも有利。 ・空き家の利用法を考える ・清掃の際に拾った落葉や竹(竹粉)の利用(捨てるのとただのゴミ→肥料へ変身！) ・防災無線の改修や増設を行政に依頼する 